

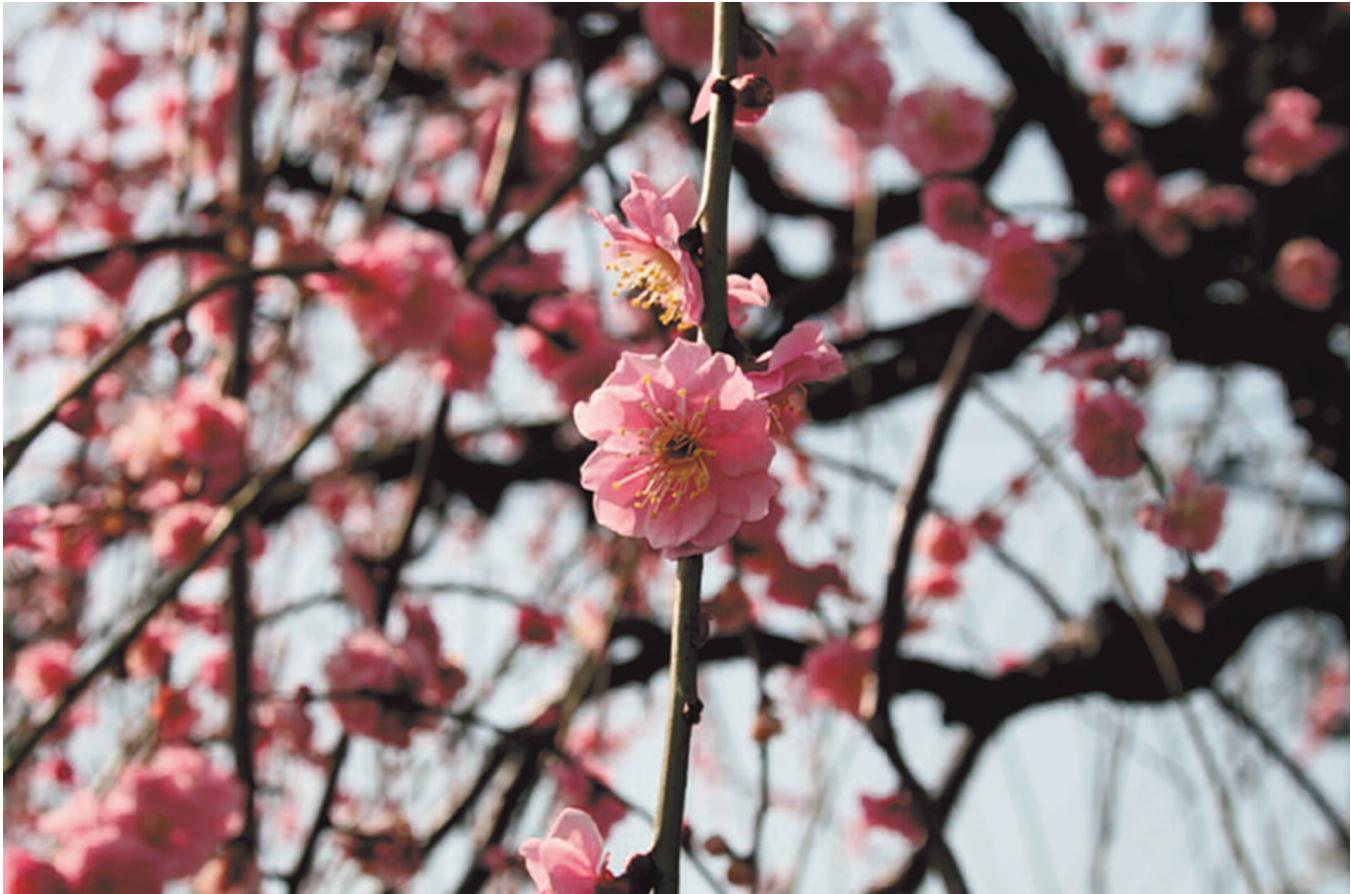
March 2010

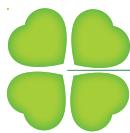
2号

埼玉医科大学国際医療センター がん情報

特集 乳がん

埼玉医科大学国際医療センターでは、患者さん・ご家族・住民の皆様にがんに関するあらゆる情報を集め、少しでも皆様に役立つ情報を発信して行きます。皆様の健康のために、この「がん情報」を上手く活用していただけることを願っています。





乳腺腫瘍科 教授 佐伯 俊昭

日本では近年、乳がんの患者数が増加し、死亡される患者さんの割合も増えています。平成21年に乳がんになった人は全国で約4万以上と報告され、女性のがんでは最も多いがんです。乳がんで命を落とさないためには、まず検診を受けること、そして標準的と呼ばれる治療を受けることが重要といわれています。事実、乳がんは検診により早期発見が可能で、治療も効果的ですので、死亡の原因としては第5番目に止まります。

国際医療センターで手術を受けられた患者さんは平成21年に約310人で、全国的にも高く評価されています。このように多くの患者さんに信頼されていることに感謝し、さらに質の高い診療を目指してスタッフ一同頑張っております。ところで、最新の乳がん治療とは何でしょうか。我々の考えでは、ただ新しいだけでは診療に導入しません。やはり信頼できる根拠がないと行わないようにしています。言い換えれば最も安全で確実な最新の治療とお考えください。ただし、治療の効果が明らかでないものは臨床試験・治験と呼び、一般市民の方々も参加している倫理審査委員会の許可を得て行っています。具体的には、手術におけるセンチネルリンパ節生検、温存手術後の短期間乳房放射線治療 (APBI)、再発予

防のための安全で効果的な薬の治療、再発後の新規薬剤の治験などを行っています。このような治療には医師のみならず、病院内の他の部署のメンバーからも厳しく評価され、患者さんを中心におきながら、かつ最新の治療開発を行っています。医学は科学であり、日進月歩です。しかし、ヒトの命に関わることですから、治療の安全性と期待される有効性について多くの人たちの目でチェックされた最新の治療を行うことが重要と考えております。



国際医療センターでは、乳がん患者さんと家族の方々をサポートするブレストケアチームと呼ばれるチームを構成しています。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの多くの職種の専門家が、乳がん患者さんに少しでも快適に療養していただく為の勉強会を開催し、勤務時間外にも関わらず熱心に参加しています。本号は、埼玉医科大学国際医療センターのブレストケアチームのメンバーを中心に、最新の乳がん診療についてお知らせいたします。



～ブレストケアチームの紹介～

乳腺腫瘍科 三角みその

乳腺腫瘍科は2004年7月に開設し、2007年4月に国際医療センターへ診療の場を移しました。かねてより、チーム医療の必要性を感じていた佐伯俊昭教授の呼びかけにより、2007年7月に立ち上がったのがブレストケアチームです。

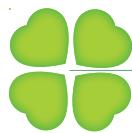
チーム医療とは、患者さんを中心として、いろいろな専門職種が協力して診療およびサポートを行うものです。乳がん診療にどのような職種が関係するかご存じでしょうか？医師（乳腺外科医・腫瘍内科医・放射線腫瘍科医・形成外科医・精神腫瘍科医・病理診断医、麻酔科医など）、看護師（外来・病棟・検査部など）、技師（診療放射線、生理機能など）、薬剤師（外来・病棟）、ソーシャルワーカー、栄養士など・・・多くの専門職がみなさんを支えています。私達は日常診療を円滑にするだけでなく、より高度

で安全、そして専門的な医療が提供できるように、定期的にミーティングや勉強会の場を設け、知識の向上や経験の共有を目指しています。

それぞれが専門家であり、お互いの知識・技術を尊重して活動しています。もし、みなさんが不安に感じることがあれば、まずは外来・病棟でご相談ください。状況に応じた専門家の受診や相談の段取りをいたします。

チーム医療は「患者さんやご家族を含めてのチーム」です。より不安の少ない、個人に合った医療を目指して、一緒にがんばりましょう。





乳がんのホルモン療法について

薬剤部 斎藤 健一

乳がんの治療は、手術、放射線、薬（抗がん剤やホルモン剤）などを組み合わせて行い、何通りものやり方があります。どれが患者さんにとって最善かはご本人と医師がじっくり話し合って決めていきます。今回は乳がんのホルモン療法についてご紹介します。

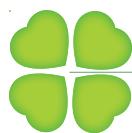
乳がんには、エストロゲン（女性ホルモン）を餌として増殖するものとそうでないものがあります。約7割の乳がんはエストロゲンにより増殖する性質をもっています。ホルモン療法は餌である体内のエストロゲンの量を減らしたり、がん細胞がエストロゲンを取り込むのを邪魔したりすることでがんの増殖を抑えます。

ホルモン療法には抗エストロゲン剤、選択的アロマターゼ阻害剤、黄体ホルモン分泌刺激ホルモン抑制剤などがあります。乳がんの術後や転移性乳がんに用いられる抗エストロゲン剤は、女性ホルモンのエストロゲン受容体への結合を阻害します。選択的

アロマターゼ阻害剤の作用機序は、アロマターゼという酵素の働きを抑え、閉経後の女性において女性ホルモンの産生を抑えます。閉経前の場合では、卵巣からの女性ホルモンの分泌を抑える黄体ホルモン分泌刺激ホルモン抑制剤を使用します。

副作用は治療を受ける人それぞれに違いがあり、個人差があります。ホルモン療法を受ける場合には、目的・期待される治療効果、予想される副作用とその対策などについて十分な説明を受け、理解することが大切です。抗エストロゲン剤の長期間服用すると子宮がんや血栓症のリスクが、選択的アロマターゼ阻害剤の場合には骨粗鬆症のリスクが高まります。そのほか、のぼせ・ほてりや性器出血や膣の乾燥、膣分泌物の増加がおこることもあります。

薬について副作用や他の薬との飲み合わせ等でなにかわからないことがありましたら、ご都合がよろしいときに1階の薬剤部窓口までお越しください。



リンパ浮腫ケア外来やっています

乳がん看護認定看護師 小島真奈美

<リンパ浮腫ケア外来とは?>

手術や放射線治療で、リンパ管を切除したり、リンパ管が細くなるとリンパ浮腫の発症の原因になります。リンパ浮腫は、治療をした全員に発症するわけではありません。普段の生活の中の皮膚の清潔保持、運動、体重管理などのセルフケアを行うことでリンパ浮腫発症の予防が出来ます。また、リンパ浮

腫を発症しても、早期に発見しケアすることで悪化予防が図れます。リンパ浮腫ケア外来では、セルフケア方法や悪化予防方法を患者さんと一緒に考えていきます。必要に応じて、医師や栄養士、理学療法士などのスタッフと連携をしています。是非、リンパ浮腫についてお困りの方は、ケア外来にお越し下さい。

<リンパ浮腫ケア外来の日時・・・>

手術後のリンパ浮腫が心配、予防方法を知りたい、浮腫があるような・・・などの
リンパ浮腫予防方法や症状の緩和を行う“乳がん看護認定看護師による外来”です。

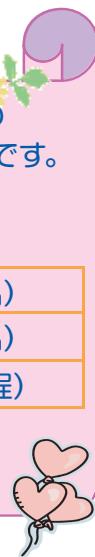
<外来日程>

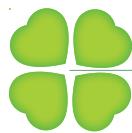
第2. 4金曜日 (予約制) 包括的がんセンター外来内

14:00~14:30	腕のリンパ浮腫予防方法について (5~6名)
14:30~15:00	足のリンパ浮腫予防方法について (5~6名)
15:00~16:00	個別相談 (1名30分程)

※当外来をご希望の方は、担当医師あるいは看護師にご相談下さい。

※個別指導は、医師の診察の後に行います。





はじめて「やまぶきの会」です

やまぶきの会 広報部

やまぶきの会は、国際医療センター通院しているあるいは通院していた乳がん患者さんの患者会です。今年の6月に2歳の誕生日を迎えるフレッシュな会です。とても優しくて頼りがいのある会長のもと、約80名の会員が仲良く楽しく活動しています。

メインの活動として「年三回の勉強会」・「啓発活動として年一回のピンクリボンキャンペーン」・「夏のお食事会とクリスマス会」を行っています。勉強会では毎回講師の先生をお招きし、私たちの治療や日常生活において知っておくべきことを学習しています。ピンクリボンキャンペーンでは、早期発見のための検診の必要性を多くの人に伝えています。(写真1) またお食事会やクリスマス会は会員の親睦の場としてとても大切な役割を果たしています。今

年のクリスマス会ではグループに分かれ、「ケーキデコレーション選手権」をしました。(写真2) たくさんの方作ができました。

私がそうであったように、患者会での出会いを通して、「仲間がいる。一人ではない。」を感じることが病気と一緒に過ごしていく毎日にいい影響を与えてくれるのではないかと思っています。



写真-1

写真-2

ピンクリボンについて



<ピンクリボンとは>

ピンクリボンは、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝えるシンボルマークです。

<ピンクリボン運動>

ピンクリボン運動は、1980年代に米国で誕生しました。乳がんで亡くなられた患者さんの家族が、「このような悲劇が繰り返されないように」と、願いをこめて作ったリボンからスタートした、乳がんの啓発運動のシ



E棟5階病棟看護師 岡部みどり

ンボルマークであり、乳がんに対する理解と支援のシンボルです。

<ピンクリボン運動の目的>

乳がんの早期発見、早期治療の大切さを広めることを目的に、世界中で啓発に関するイベントや活動が行われています。日本でも、ここ数年ピンクリボン運動が盛んになり、市民団体・専門家・企業・患者会などが、乳がんの早期発見の大切さ、乳がんの正しい知識を知ってもらうための様々な活動を行っています。

埼玉医科大学国際医療センター がん情報

October 2009 第2号

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

編集責任者 佐伯 俊昭

発行責任者 松谷 雅生

発行日 平成22年3月1日

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。

基本理念 : 患者中心主義のもと安心で安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。

使 命 : 当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。

基本方針 : 患者中心主義 (patient-oriented) を貫き、あらゆる面で “患者にとって便利” であることを主眼とし、患者ひとりひとりにとって最も適切な医療を提供する。



当センターは、紹介・予約制です。